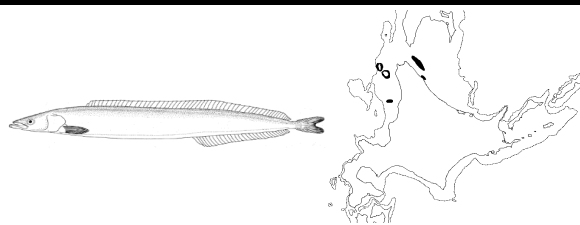


# 26.イカナゴ類

主な漁業と漁期  
 沖合底びき網：6～9月  
 小定置網・すくい網：4～7月



## 宗谷海峡海域

### 生態

#### ◆分布・回遊

2015年にオオイカナゴが新種記載され、日本周辺に分布するイカナゴ属は下記の3種とされました。

宗谷海峡海域で漁獲されるイカナゴ類には、イカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれ、宗谷海峡海域はこれら3種が同所的に分布することが分かっている唯一の海域となっています。3種は外見による判別が困難なため、漁業現場では区別されていません。

#### ◆産卵期・産卵場

◎産卵期・産卵場に関する既存の知見は、複数種を混同していた可能性があるため、再検討が必要です。

#### ◆成長・成熟

(6月時点)

	イカナゴ		オオイカナゴ	
	体長(cm)	体重(g)	体長(cm)	体重(g)
1歳	15.7	19.3	16.1	21.7
2歳	18.6	34.9	18.6	35.2
3歳	20.7	48.1	20.7	47.7
4歳	22.3	57.9	22.3	58.1
5歳	23.4	64.6	23.6	66.3
6歳	24.2	69.1	24.7	72.7
7歳	24.8	72.0	25.5	77.4

\*) 堀本ら(2018)の成長式をもとに推定。

\*) 加齢の基準日：6月1日

#### ◎成熟年齢

既存の知見は、複数種を混同していた可能性があるため、再検討が必要です。

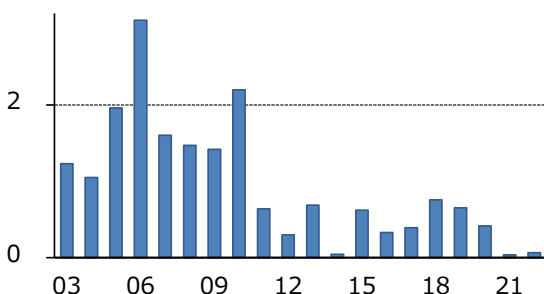
### 資源評価

[評価年] 1月～12月

[来遊水準の指標] 漁獲量

2022年度の漁獲量は657トンで、記録的不漁だった前年度よりは増加したものの、来遊水準は引き続き低水準と判断されました。本資源の来遊状況には海洋環境が影響していると考えられていますが、翌年度の海洋環境の予測が難しいことから今後の動向は不明です。

漁獲量 (万トン)



2022年度  
の水準



低水準

2023年度  
の動向



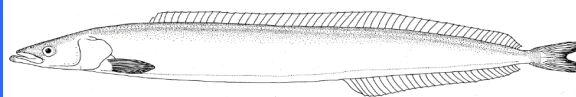
不明 (概要報告)

道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

### 資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

- 漁獲努力量管理
  - ・操業期間の短縮 (漁期：6～9月末)
  - ・休漁日の設定



☆またがり資源のため、来遊状況を注視し、持続的に資源を利用していくことが重要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係  
 北海道立総合研究機構 稚内水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477  
 電話 0162-32-7166